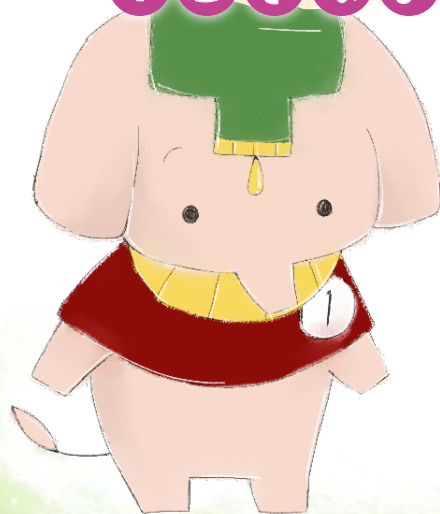


タギゾウちゃんと
不思議な妖精

ふしぎなようせい



さく：養老町教育委員会 中島 和哉
え：山本 彩乃



タギゾウくんはタギの国の王様です。

タギの国には、地震が起きそうになると、シッポがウズウズする不思議なようせいがいます。



よく晴れたある日、タギゾウくんは、みんなと一緒に、象鼻山へピクニックに来ていました。
みんな、楽しそうにしています。しかし、妖精だけは、なぜか元気がありません。
なんだかシッポが気になるようで、手で触ったり、石にこすったりしています。
「ケガでもしたのかな・・・。」心配に思ったタギゾウくんは、シッポを見てあげようと思いました。



しかし、妖精は嫌がってシッポを見せてくれません。ついには、山の中に隠れてしまいました。
タギゾウくんが、妖精を探しに行こうとすると、女神さまがタギゾウくんを呼び止めます。
「妖精のシッポがウズウズするとき、タギの国には地震が起こります。あなたは山を降りて、みんなに、
このことを伝えなさい。」タギゾウくんは、すぐに走りだしました。



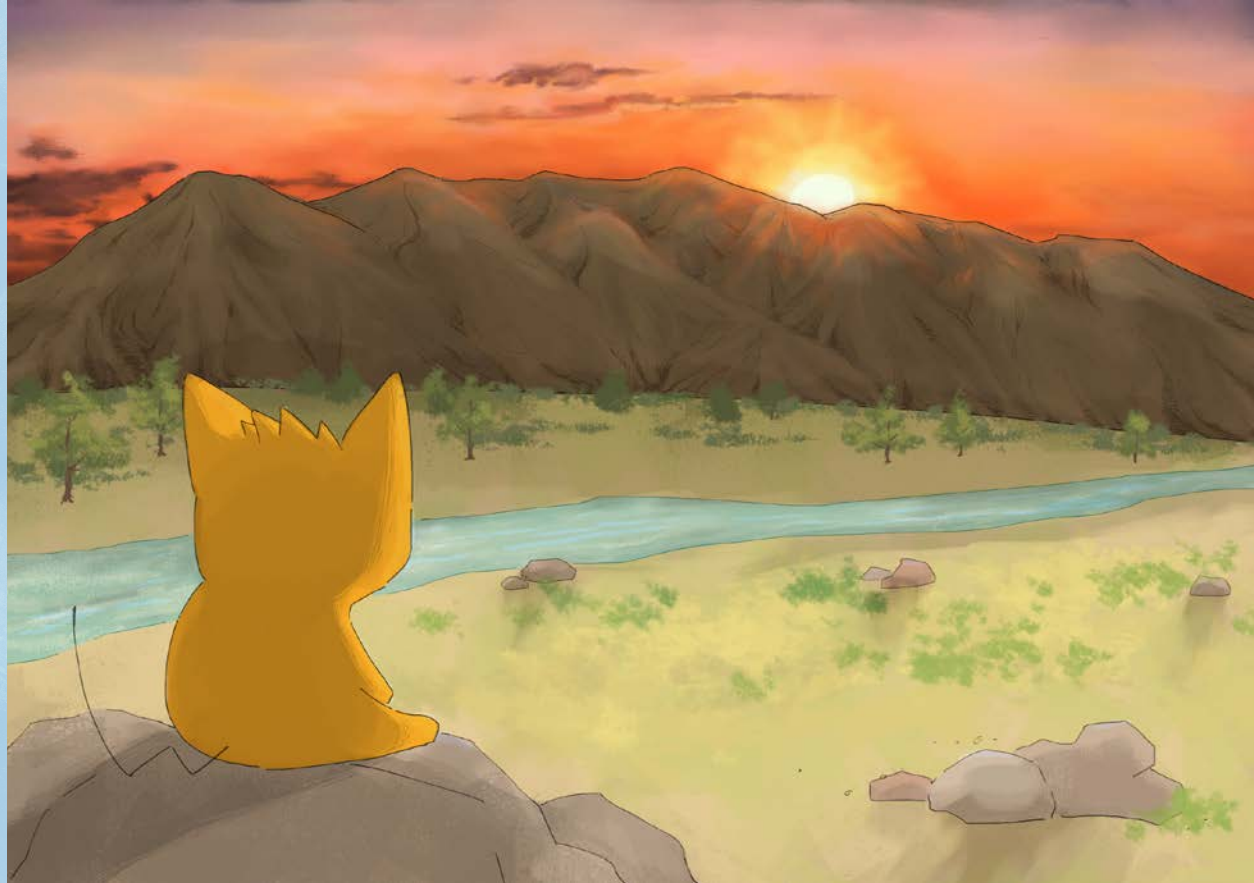
しかし、間に合いませんでした。**ドーーーーン！** 地面の下から、とても大きくて強い音が響いてきます。すると、タギの国の地面が、急に大きく揺れ始めました。驚いたゾウたちは、家の柱に捕まったり、立っていられず座り込んだりしています。ようやく揺れがおさまったころ、家は倒れ、田んぼはひび割れ、地面からは水と泥が吹き出していました。



ゆ
揺れがおさまると、ようせい
妖精は、いつもの様子に戻っています。しかし、タギゾウくんの足は、まだ震えていま
した。「このまま放ほうっておくと、タギの国くにがつぶれてしまうかも。」
こま
困ったタギゾウくんは、めがみ
女神さまに会いに象鼻山あしに戻りました。



タギゾウくんが不安な気持ちを伝えると、女神さまは言いました。
「妖精は不思議な力で、地震がくることが分かります。しかし、地震を止めることはできません。それに、
タギの国が豊かなのは、地震の力のおかげでもあるのですよ。」
「えっ！」タギゾウくんが驚いていると、女神さまはゆっくりと話しはじめました。

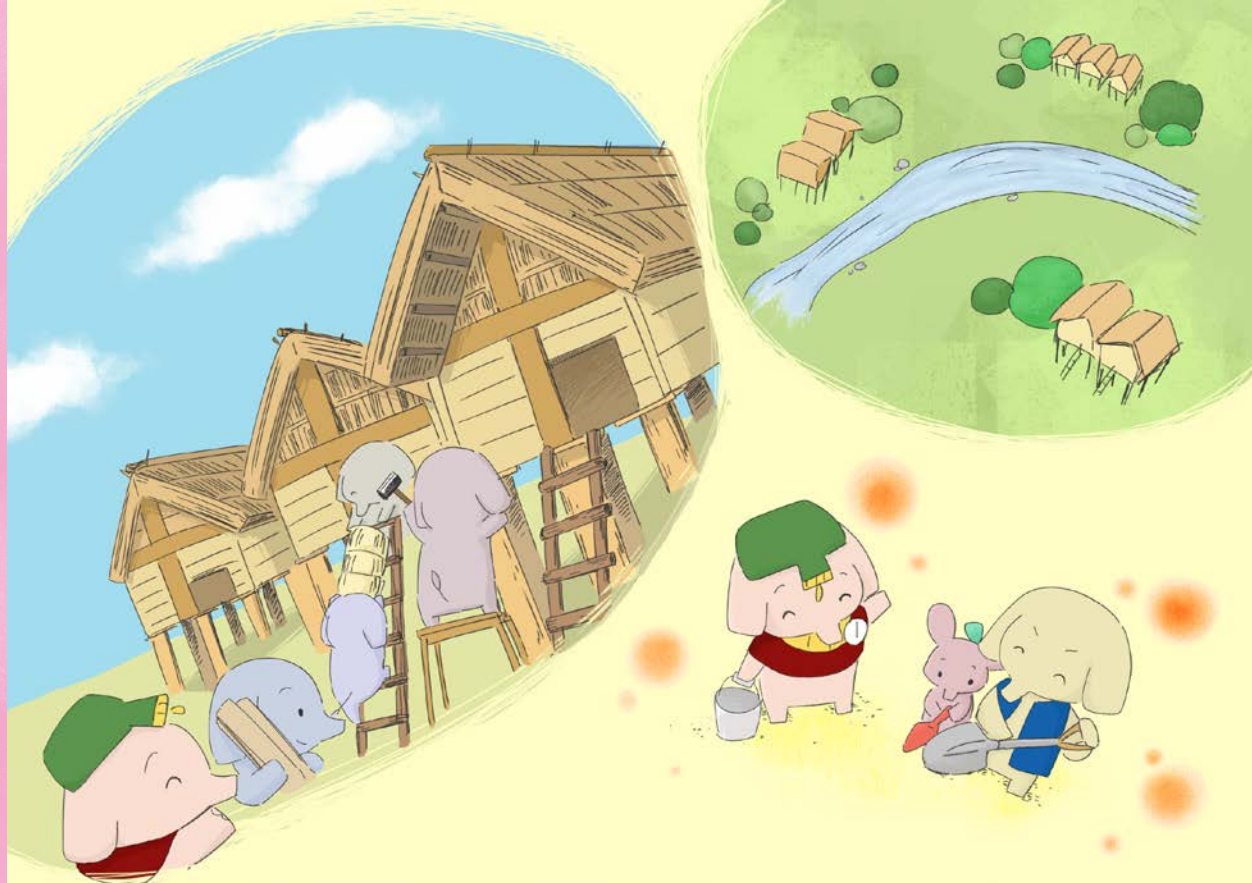


タギの^{くに}国にまだゾウたちが^す住んでいない、ずっとずっと昔のこと、大地は^{むかし}長く^{だい}大きく^ち揺れ^{なが}続けて^{おお}いました。^ゆそして、^{つづ}長い^{なが}長い^{なが}時間^{じかん}の中で、^{なか}ついに^ちタギの^ち地には、^{たいよう}太陽が^{しず}沈む^{ほうこう}方向に^{やま}山が^{たいよう}でき、^{のぼ}太陽が^{ほうこう}昇る^{たい}方向に^{じめん}平らな^く地面が^すできた^{くに}のです。やがて、そこには、^{かわ}川と^{うみ}海が^{あつ}集まる^すようになりました。ゾウたちの^す住む^{くに}タギの^{くに}国ができたのはそれから^{ようせい}です。妖精は^みずっと^みそれを見て^{じしん}きました。地震^{じしん}が^{じしん}くる^{じしん}ことが^{じしん}わかる^{じしん}のは、その^{じしん}ため^{じしん}か^{じしん}もしれ^{じしん}ません^{じしん}ね。



「タギの国をつくってくれたのが、地震の力だってことは分かったけど、このままじゃタギの国の家や田んぼはどんどん壊れていっちゃうよ。妖精は地震がくることをぼくたちに教えてくれないの？」

「妖精には私から話しておきましょう。でも、妖精のシッポがウズウズしてからでは間に合いませんよ。あらかじめ準備をしておき、大きな被害があっても、助け合って、自分たちの力でタギの国を元通りにできるようにしておくとういでしょう。」



つぎ あさ
 次の朝、タギゾウくんは、めがみ はなし
 女神さまの話をゾウたちに伝えました。そして、こめ しょくりょう た
 お米などの食糧を貯めておく
 そうこ ゆ だいじょうぶ かんじょう こうずい ぬ くさ
 倉庫を、揺れても大丈夫なよう頑丈にし、さらに洪水で濡れて腐ったりしないよう、柱を長くしました。
 また、おお そうこ くら かしよ こわ ほか そうこ のこ
 大きな倉庫をそれぞれの村につくり、1ヶ所が壊れても、他の倉庫が残るようにしました。
 じしん お つか どうぐ じゅんび
 地震が起きたときに使う道具も、あらかじめ準備しておきます。



そして、しばらくたったある日、タギゾウくんが象鼻山で昼寝をしていると、小さな手が体をゆすっています。タギゾウくんが目を覚めると、そこにはウズウズするシッポを我慢している妖精がいました。「地震がくるんだね？」タギゾウくんは、急いで山を降りました。「地震がくるよ！すぐに備えて！」タギゾウくんは、みんなに伝えました。ゾウたちは、すぐに子どもたちをひなんさせ、地震への準備をします。



そして、また地面の下から「**ドーーーーン！**」という大きくて強い音が響いてきました。
すると、今度もまた地面が大きく揺れ、家が倒れ、田んぼはひび割れ、地面からは水と泥が吹き出してきます。
元に戻った妖精は、象鼻山から、悲しい表情で、タギの国の様子を眺めていました。



いえ たお た わ
家が倒れ、田んぼがひび割れてしまったゾウたちは、どうしていいかわからず泣いています。しかし、すぐ
にまわりの村々からゾウたちが集まってきました。ゾウたちは協力して、壊れた家や、田んぼのひび割れを
なおしていきます。食糧も、タギの村々で協力して、出し合いました。
こうして、地震で家や田んぼが壊れてしまった村も、また元の暮らしを取り戻していききました。



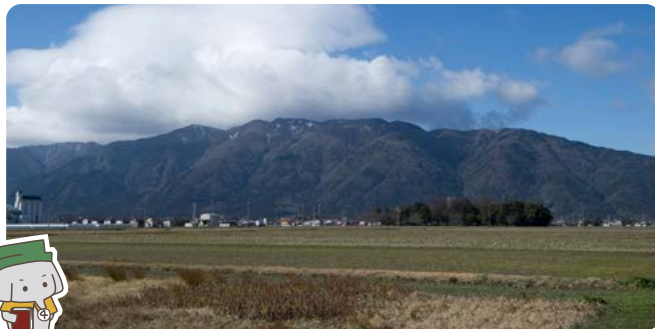
ホッとしたタギゾウくんが、ひさしぶりに象鼻山に登ると、みんながピクニックの準備を始めていました。妖精もいます。しかし、すっかり疲れていたタギゾウくんは、いつの間にか、眠ってしまっていました。そんなタギゾウくんのほっぺたに、小さな手がやさしく触れました。ゆっくり、目を覚ますと、そこには妖精がすわっています。



「どうしたの？」タギゾウくんがたずねると、妖精は、ジュースをタギゾウくん^さに差し出^だしました。そして、
すぐに女神さま^{めがみ}のところ^{もど}に戻^{もど}っていきます。タギゾウくんは、その後ろ姿^{うし}を見^みながら、心^{こころ}の中^{なか}でいいました。
「地震^{じしん}のことを教^{おし}えてくれてありがとう。これからも、タギの国^{くに}を助^{たす}けてね。」



解説 養老断層について



岐阜県養老町の足元には、「養老断層」と呼ばれる活断層があります。

養老町の山地と平野部に二分される特徴的な地形は、この養老断層の活動が作り出したもので、養老町の平野部は今でも徐々に沈下しています。そのため、濃尾平野に流れ出た川は、全て養老山地に向かい、養老町の先人たちは、常に水害や地震に苦しんできました。

ただ、その一方で、陸地が狭く、多くの川が集まる地形環境は、養老町を物流の拠点として発展させてもいます。

このように、養老断層は養老町の根幹をなすものです。ぜひ、養老町を取り巻く地形環境に興味をもち、将来必ず起こる災害への対策を見直してみてください。



岐阜県養老町の歴史文化資源：<http://tagizou.com/>

電子書籍 のびゆく養老町：<http://tagizou.com/main/elibrary/?committee>

養老断層の活動履歴

- 2世紀後半 象鼻山山頂部に断層活動による地形変位がおき、象鼻山3号墳が損壊しました。
- 745年 **天平大地震**…3日3晩にわたって地震が続き、その被害は濃尾平野から伊勢湾周辺地域まで及んだとされています。
- 1586年 **天正大地震**…被害は福井県から愛知県にまで及んだとされており、養老断層だけでなく、複数の断層が震源になった可能性が指摘されています。



M A P & ア ク セ ス



▶ 象鼻山

車

名神高速道路 大垣インターより約 30 分
名神高速道路 関ヶ原インターより約 17 分

▶ 養老の滝

車（養老公園）

名神高速道路 大垣インターより約 20 分
養老公園内及び滝付近にそれぞれ駐車場あり。

電車

養老鉄道 養老駅から徒歩約 45 分





おしまい